

「赤穂市総合戦略」 効果検証評価

Ⅰ. 数値目標及びK P Iからの評価

(1) 赤穂市総合戦略の構造

基本目標	基本的方向数	施策数
赤穂市における安定した雇用を創出する	3	6
赤穂市への新しいひとの流れをつくる	3	5
若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	2	4
時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るために、地域と地域を連携する	5	1 2

(2) 評価の方法

目標と実績値の評価

数値目標、K P Iについて、本報では赤穂市総合戦略で設定されたR 1年度目標と、R 1年度の実績値を比較し、評価を行っている。(未統計場合は最新のデータを使用)

達成 : K P I、基本目標の実績値について、目標を達成しているか、現状値より改善されている。
現状維持 : K P I、基本目標の実績値について、概ね現状どおりである。
未達成 : K P I、基本目標の実績値について、目標を達成していないか、現状値より改善されていない。

各担当課の評価

数値目標、K P Iの達成については、各担当課よりA～Cの3段階で評価を行っている。担当課評価の際の基準は、次のとおりである。

達成状況 A : K P I、基本目標の達成がなされている
B : K P I、基本目標が概ね達成されている
C : K P I、基本目標の達成がなされていない
地方創生への効果 A : 大きな効果があった
B : 相当程度の効果があった
C : 効果が無かった

なお、各担当課からの評価は、A : 3点、B : 2点、C : 1点として配点をしている。

(3) 基本目標に係る数値目標の評価

【実績値】

基本目標	数値目標	現状値		目標値		実績値		達成確認
		年度	数値	R1	R2 (新)	年度	数値	
1. 赤穂市における安定した雇用を創出する	就業者数	H22	21,780人	23,450人	23,800人	H27	21,322人	未達成
2. 赤穂市への新しいひとの流れをつくる	社会増減（転入者数－転出者数）	H26	△189人	△56人	△56人	R1	△171人	未達成
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	合計特殊出生率	H22	1.40	1.55	1.56	H27	1.43	現状維持
	婚姻率（人口千人対）	H25	3.7‰	4.5‰	4.5‰	R1	3.5‰	未達成
4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るために、地域と地域を連携する	広域市町連携による協定分野数	H26	7分野	31分野	31分野	R1	29分野	達成
	空き家・空き店舗の新たな補助制度の創設	-	-	-	-	R1	1事業	達成
	公共交通を利用した地域間交流人口	H26	36,294人/年	40,000人/年	40,000人/年	R1	35,601人/年	未達成

【分析】

- ・ 就業者数、社会増減、婚姻率、公共交通を利用した地域間交流人口においては未達成であり、今後改善が求められる。
- ・ 広域市町連携については、「播磨圏域連携中枢都市圏ビジョン、東備西播定住自立圏共生ビジョン」に基づき、地域間連携の動きがみられる。また、ビジョンに基づき、医療、教育、産業振興などの分野で地域連携を行っており、今後も連携の強化が求められる。

【数値目標に対する各担当課の評価】

基本目標	数値目標	達成状況	地方創生への効果
1. 赤穂市における安定した雇用を創出する	就業者数	B	B
2. 赤穂市への新しいひとの流れをつくる	社会増減（転入者数－転出者数）	B	B
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	合計特殊出生率	C	B
	婚姻率（人口千人対）	C	C
4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るために、地域と地域を連携する	広域市町連携による協定分野数	B	B
	空き家・空き店舗の新たな補助制度の創設	A	B
	公共交通を利用した地域間交流人口	B	B

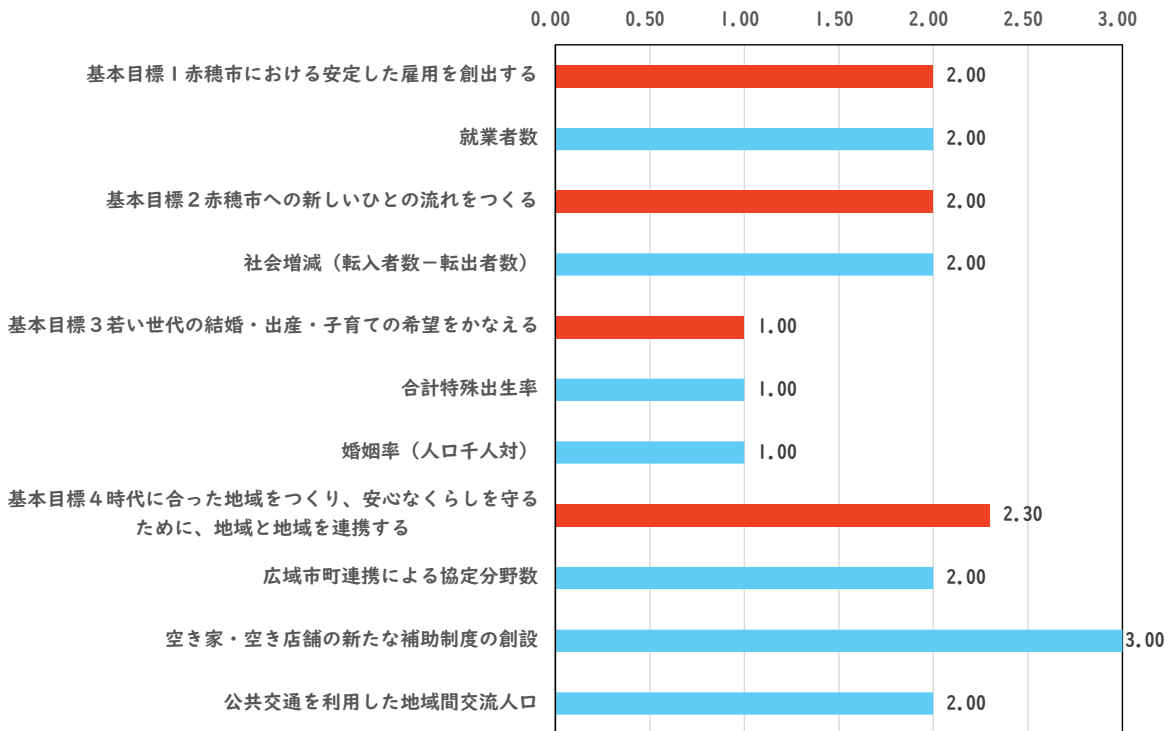
【分析】

- ・ 若い世代の結婚・出産・子育ての分野において、担当課の評価が低くなっている。
- ・ 空き家・空き店舗の活用について、平成30年度に「空家活用支援事業補助金」、令和元年度に「古民家再生促進支援事業補助金」を新設し、住宅、事業所、地域交流拠点として活用するための取組も始まっている。
- ・ 今後も、若い世代に対する支援の充実化に加え、合計特殊出生率向上に向けた取組が求められる。

【達成状況と地方創生への効果結果】

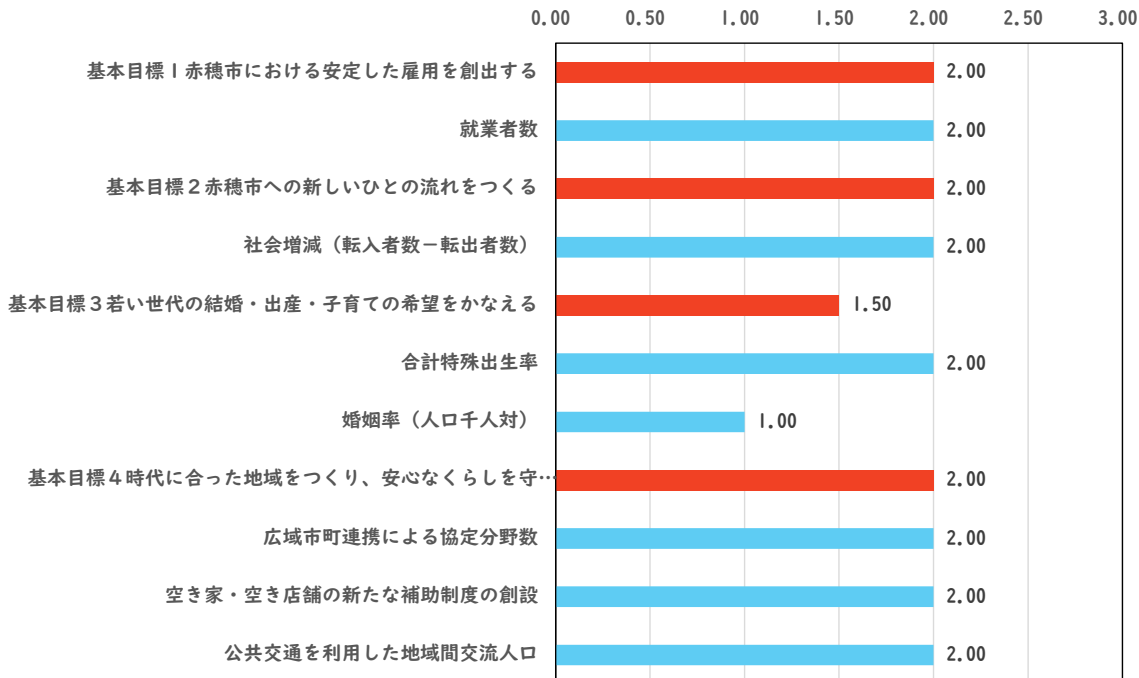
「赤穂市総合戦略」達成状況

(点)



「赤穂市総合戦略」地方創生への効果

(点)



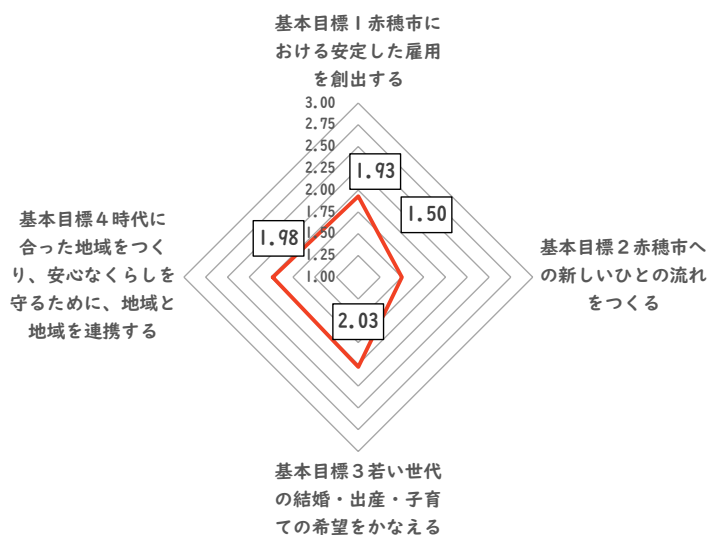
※横棒の色について、“基本目標”は赤色、“数値目標”は水色。

(4) 施策に係るKPIの評価

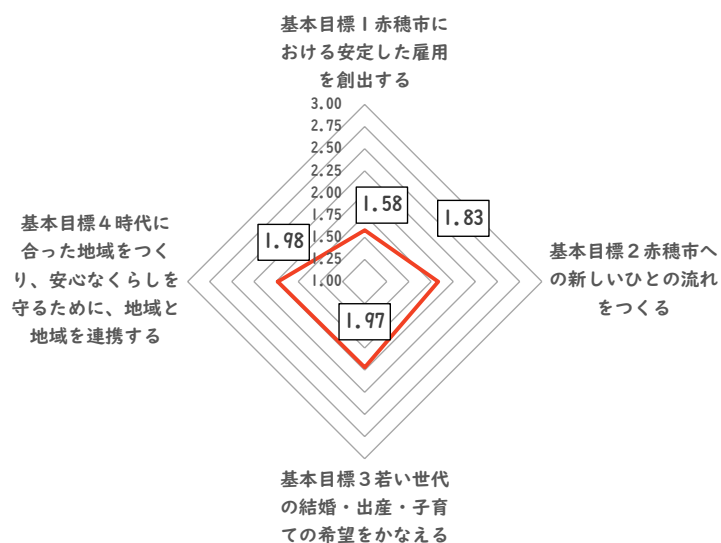
「赤穂市総合戦略」のKPIに対する各担当課の「達成状況」、「地方創生への効果」を点数化し、基本的方向ごとに平均点を算出した後、その数値を4つの基本目標ごとに平均し評価点とした。

- ・達成評価が最も高かったのは「基本目標4 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るために、地域と地域を連携する」で評価点 2.42。
- ・達成評価が最も低いのは「基本目標2 赤穂市への新しいひとの流れをつくる」で評価点 1.50。
- ・地方創生への効果が最も高かったのは「基本目標4 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るために、地域と地域を連携する」で評価点 1.98。
- ・地方創生への効果が最も低いのは「基本目標1 赤穂市における安定した雇用を創出する」で評価点 1.58。

基本目標 達成評価



基本目標 地方創生への効果



K P I の実績値の分析

基本目標1：赤穂市における安定した雇用を創出する

【実績値】

基本的方向	施策	KPI	現状値		目標値		実績値		達成確認
			年度	数値	R1	R2 (新)	年度	数値	
雇用対策	地域の雇用対策	就業率	H22	50.1%	56.1%	56.8%	H27	50.4%	未達成
	農業・漁業の担い手確保と育成	認定農業者数	H26	22人	25人	26人	R1	24人	現状維持
		新規就農者数	H26	2人	4人	5人	R1	7人	達成
		漁業従事者数	H26	72人	74人	75人	R1	54人	未達成
	障がいのある人の就労活動を通じた自立の促進	障害者就労施設からの物品調達額	H26	1,456,800円	1,600,000円	1,650,000円	R1	1,748,468円	達成
地域産業の競争力強化（業種横断的取組）	農商工連携の推進	生産者・加工業者のマッチングした利用者数	-	-	30人	30人	R1	0人	未達成
地域産業の競争力強化（分野別取組）	地域産業の競争力強化	農林水産物のブランド化取組件数	-	-	5件	5件	R1	7件	達成
		赤穂緞通伝承者の育成	-	-	-	-	R1	29人	達成
	地域商業の対策	「赤穂市中小企業経営安定資金融資制度」を活用した空き店舗の新規利用件数の増加	-	-	-	-	R1	0	未達成

【分析】

- ・新規就農者数の目標を達成しており、引き続き、新規就農者の定着を図るため地域と連携し、新規就農者への支援などの取組を維持・拡充することが必要である。
- ・生産者・加工業者のマッチングについては利用者の実績が無く、生産、加工、販売までのトータルなサポートも課題として考えられる。

【K P I に対する各担当課の評価】

基本的方向	施策	KPI	達成状況	地方創生への効果
雇用対策	地域の雇用対策	就業率	B	B
	農業・漁業の担い手確保と育成	認定農業者数	B	B
		新規就農者数	A	B
		漁業従事者数	C	B
	障がいのある人の就労活動を通じた自立の促進	障害者就労施設からの物品調達額	A	B
地域産業の競争力強化（業種横断的取組）	農商工連携の推進	生産者・加工業者のマッチングした利用者数	C	C
地域産業の競争力強化（分野別取組）	地域産業の競争力強化	農林水産物のブランド化取組件数	A	B
		赤穂緞通伝承者の育成	A	A
	地域商業の対策	「赤穂市中小企業経営安定資金融資制度」を活用した空き店舗の新規利用件数の増加	B	C

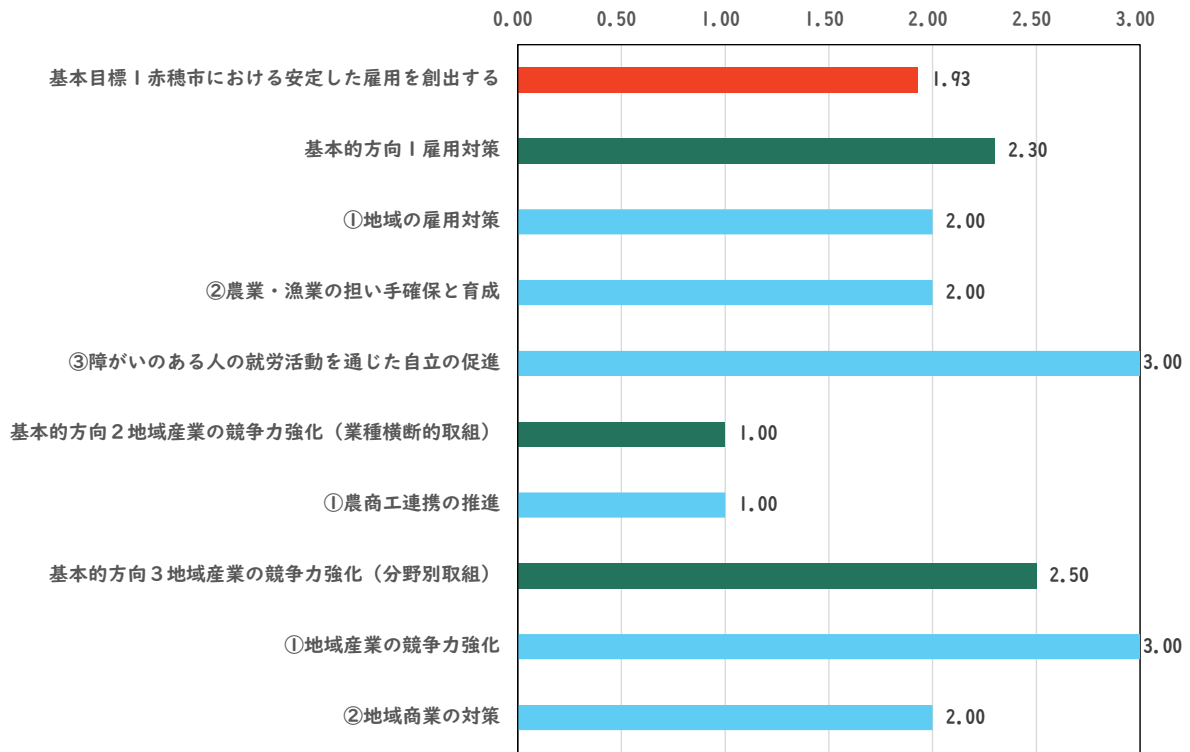
【分析】

- ・新規就農者数については目標を達成しているものの、漁業従事者数については目標未達成であり、漁業の分野に課題がある。
- ・地域産業の競争力強化に関する項目において評価が高く、今後もこれらを強みとした競争力の強化が求められる。

【達成状況と地方創生への効果結果】

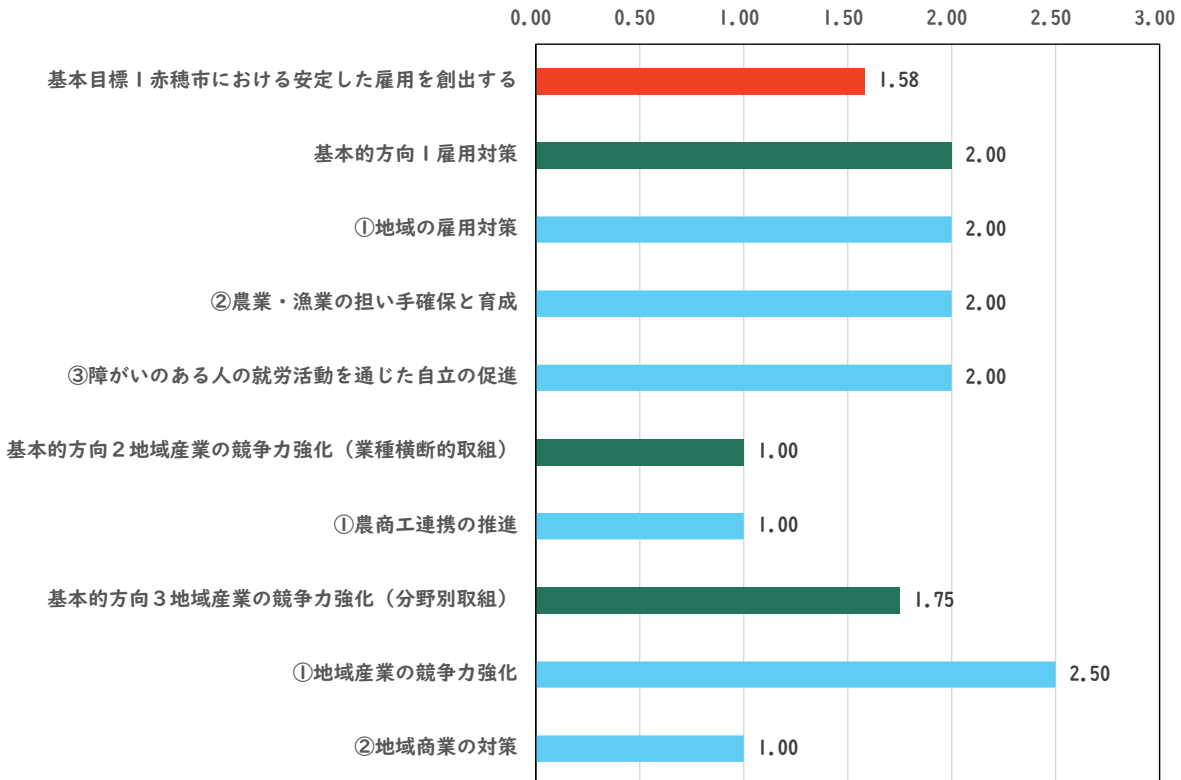
基本目標Ⅰ 達成状況

(点)



基本目標Ⅰ 地方創生への効果

(点)



※横棒の色について、“基本目標”は赤色、“基本的方向”は緑色、“施策”は水色。

基本目標2:赤穂市への新しいひとの流れをつくる

【実績値】

基本的方向	施策	KPI	現状値		目標値		実績値		達成確認
			年度	数値	R1	R2(新)	年度	数値	
地方移住の推進と情報発信の強化	地方移住の推進	定住支援策による転入者数	H26	156人/年	175人/年	180人/年	R1	181人/年	達成
		住宅取得助成件数	H26	35件/年	132件/年	132件/年	R1	167人/年	達成
		新婚世帯家賃助成件数	H26	51件/年	50件/年	50件/年	R1	73件/年	達成
	赤穂の魅力発信	情報発信力(メディアの種類拡大、コンテンツの充実、事業数の増大)の強化	-	-	-	-	R1	7	達成
地方拠点強化	企業の地方拠点強化	製造業事業所数(従業員4人以上の事業所)	H26	99事業所	104事業所	105事業所	R1	93事業所	未達成
地域資源を活用した交流の促進	農水産物オーナー制	農水産物のオーナー制の制度数	-	-	3制度	3制度	R1	0	未達成
	観光振興の推進	観光入込客数	H25	1,500,000人	2,080,000人	2,200,000人	R1	1,454,000人	未達成

【分析】

- ・地方移住の推進に関して、支援金交付事業や定住相談会などの実施により目標を達成している。
- ・企業の地方拠点強化、農水産物のオーナー制、観光振興の推進に関しては目標未達成であり、今後、各種施策を見直す必要がある。

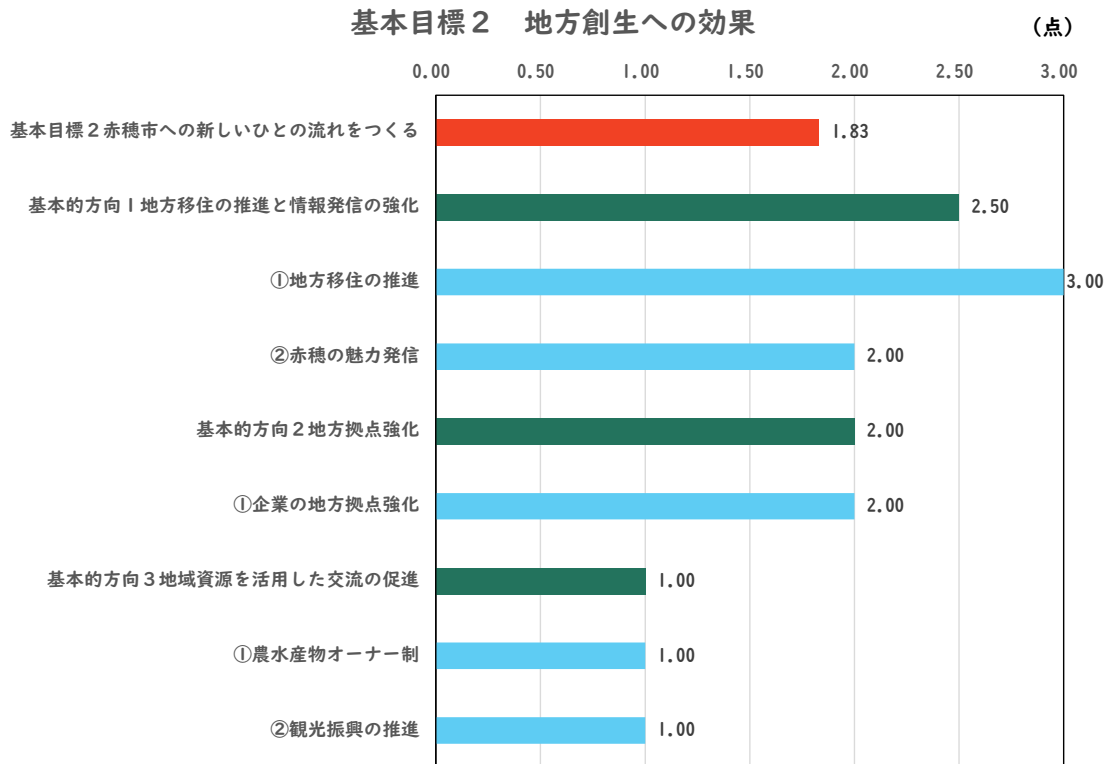
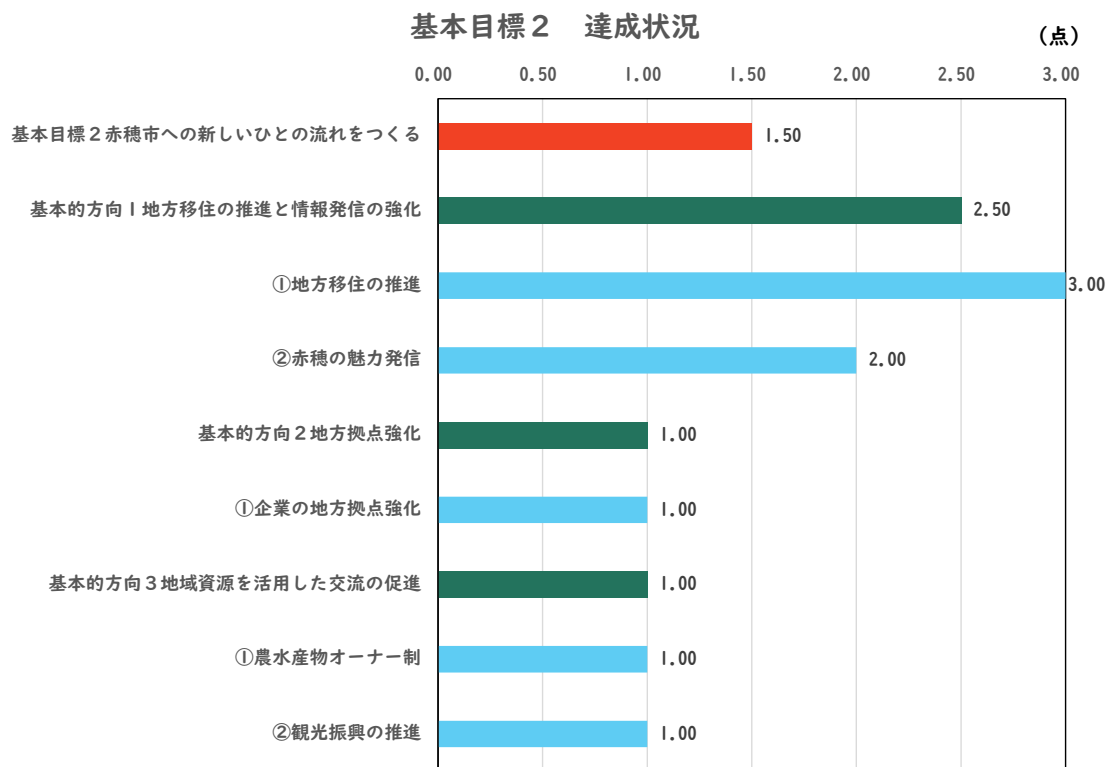
【KPIに対する各担当課の評価】

基本的方向	施策	KPI	達成状況	地方創生への効果
地方移住の推進と情報発信の強化	地方移住の推進	定住支援策による転入者数	A	A
		住宅取得助成件数	A	A
		新婚世帯家賃助成件数	A	A
	赤穂の魅力発信	情報発信力(メディアの種類拡大、コンテンツの充実、事業数の増大)の強化	B	B
地方拠点強化	企業の地方拠点強化	製造業事業所数(従業員4人以上の事業所)	C	B
地域資源を活用した交流の促進	農水産物オーナー制	農水産物のオーナー制の制度数	C	C
	観光振興の推進	観光入込客数	C	C

【分析】

- ・地方移住の推進に関しては、各担当課の評価が高くなっている。
- ・農水産物のオーナー制、観光振興の推進に関しては、担当課の評価が低くなっており、目標達成に向けた取組の改善・強化が求められる。

【達成状況と地方創生への効果結果】



※横棒の色について、“基本目標”は赤色、“基本的方向”は緑色、“施策”は水色。

基本目標3:若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

【実績値】

基本的方向	施策	KPI	現状値		目標値		実績値		達成確認
			年度	数値	R1	R2 (新)	年度	数値	
結婚・出産・子育ての支援	子ども・子育て支援の充実	子育てしやすい環境にあると思う人の割合	H26	57.1%	71.7%	75.0%	H30	76.80%	達成
		幼稚園・保育所等の利用率(0~2歳児)	H26	12.1%	20.0%	20.0%	R1	27.3%	達成
		幼稚園・保育所等の利用率(3歳児)	H26	26.9%	70.0%	70.0%	R1	58.40%	達成
		幼稚園・保育所等の利用率(4~5歳児)	H26	99.5%	100.0%	100%	R1	100.0%	達成
		インフルエンザ予防接種率	-	-	80.0%	80.0%	R1	50.60%	未達成
	妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	子育て講座等への父親参加率の向上	-	-	-	-	R1	60人	達成
		子どもへの多様な学習機会の提供	-	-	-	-	R1	89.60%	達成
	若者の結婚のきっかけづくりの推進	結婚支援事業利用者数の増加	H26	18組	-	-	R1	12組	未達成
若い世代(女性)の仕事と生活の調和	女性の雇用確保と起業の支援	赤穂女性チャレンジひろばの積極的な活用	H26	113件	-	-	R1	68件	未達成

【分析】

- ・ 幼稚園・保育所等の利用率が上昇傾向にあることから、施設利用のニーズが高まっている。
- ・ インフルエンザ予防接種率が低いことから、助成対象者の見直しを行うなど、予防接種率の向上に向けた取組が必要である。
- ・ 赤穂女性チャレンジひろばについて、再就職に役立つ資料が豊富であるので、女性の雇用促進に向けて活用していただくよう効果的なPRが求められる。

【KPIに対する各担当課の評価】

基本的方向	施策	KPI	達成状況	地方創生への効果
結婚・出産・子育ての支援	子ども・子育て支援の充実	子育てしやすい環境にあると思う人の割合	A	B
		幼稚園・保育所等の利用率(0~2歳児)	A	B
		幼稚園・保育所等の利用率(3歳児)	C	B
		幼稚園・保育所等の利用率(4~5歳児)	A	B
		インフルエンザ予防接種率	C	C
	妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	子育て講座等への父親参加率の向上	B	B
		子どもへの多様な学習機会の提供	B	B
若者の結婚のきっかけづくりの推進	結婚支援事業利用者数の増加	B	B	
若い世代(女性)の仕事と生活の調和	女性の雇用確保と起業の支援	赤穂女性チャレンジひろばの積極的な活用	B	B

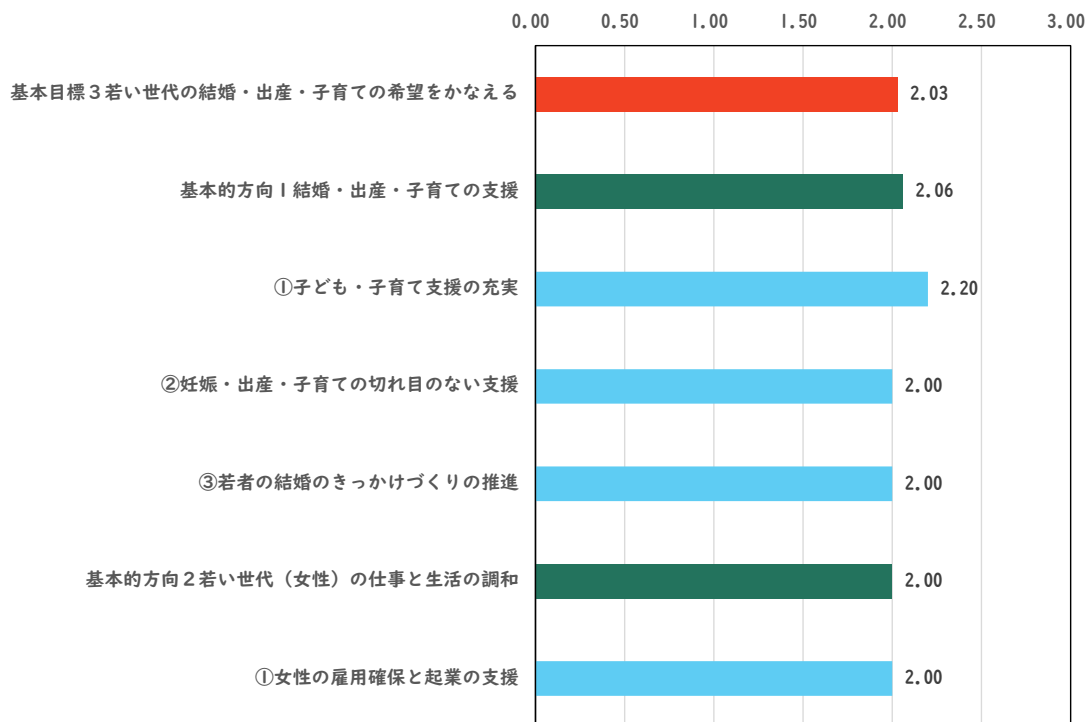
【分析】

- ・ 幼稚園・保育所等の利用率に関しては、担当課の評価が高い傾向にある。
- ・ 赤穂女性チャレンジひろばの積極的な活用、子どもへの多様な学習機会の提供などの分野では、達成状況がBであり、幼稚園・保育所の利用率向上とともに、取組の拡充が求められる。

【達成状況と地方創生への効果結果】

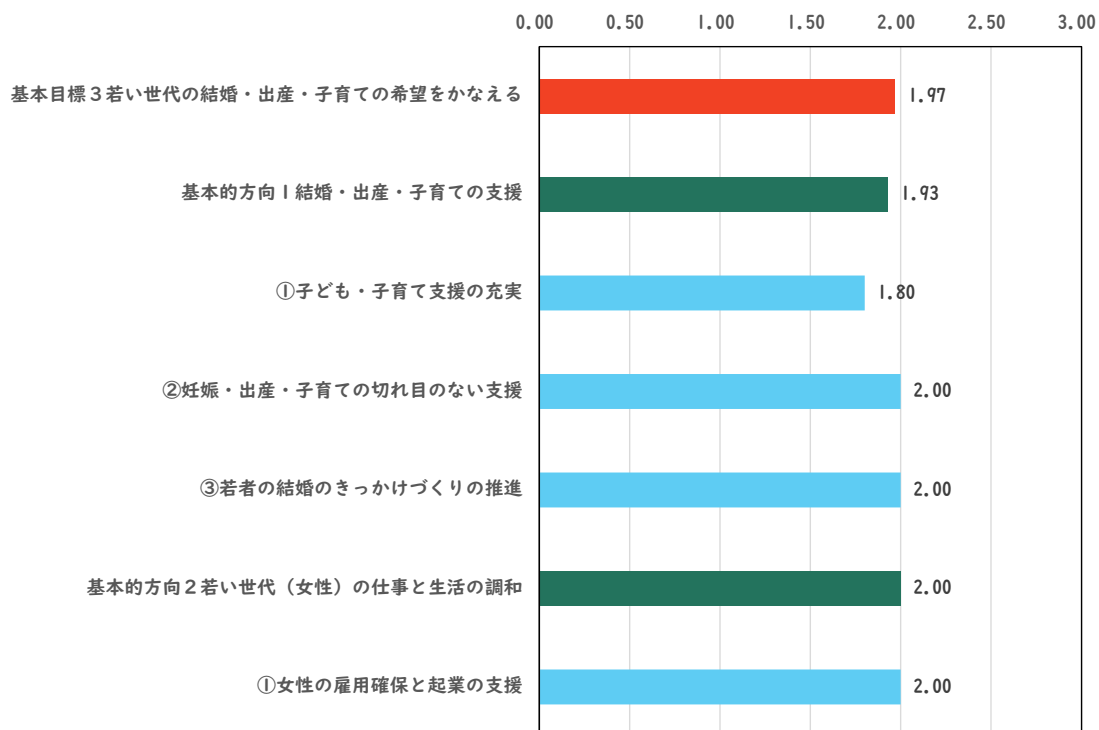
基本目標3 達成状況

(点)



基本目標3 地方創生への効果

(点)



※横棒の色について、“基本目標”は赤色、“基本的方向”は緑色、“施策”は水色。

基本目標4:時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るために、地域と地域を連携する

【実績値】

基本的方向	施策	KPI	現状値		目標値		実績値		達成確認
			年度	数値	R1	R2(新)	年度	数値	
地域連携によるまちづくりの推進	地域資源の連携活用	観光マップ化取組地区数	-	-	2地区	2地区	R1	3地区	達成
		赤穂織通伝承者の育成(再掲)	-	-	-	-	R1	29人	達成
	過疎化が進む地域における小さな拠点の形成	コミュニティバス利用者数	H26	36,294人/年	37,000人/年	37,000人/年	R1	35,181人/年	現状維持
		デマンドタクシー利用者数	-	-	3,000人/年	3,000人/年	R1	420人/年	未達成
	生活拠点としてのにぎわいの創出	駅周辺開発地区数	-	-	2地区	2地区	R1	2地区	達成
	産地化の推進	産地化した特産品数	H26	4品	8品	8品	R1	5品	達成
	都市部と農村地域の交流促進	交流地区数	H26	6地区	7地区	7地区	R1	5地区	未達成
	高齢者を見守る支えるネットワークの形成	赤穂市高齢者見守りネットワーク協定書の締結事業者数	H26	42事業所	70事業所	75事業所	R1	70事業所	達成
地域連携による経済・生活圏域の形成	地域連携による経済・生活圏域の形成	播磨圏域連携中枢都市圏形成協定分野数	-	-	22分野	22分野	R1	22分野	達成
		東備西播定住自立圏形成協定分野数	H26	7分野	9分野	9分野	R1	7分野	現状維持
防災・減災対策の推進	防災・減災対策の推進	防災情報システムの整備	H26	26.5%	-	-	R1	100%	達成
	避難所等防災施設の充実強化	防災備蓄物資及び防災備蓄庫の整備数	-	-	18箇所	18箇所	R1	20箇所	達成
		避難所施設(小学校に限る)トイレ用水の整備数	-	-	10箇所	10箇所	R1	9箇所	現状維持
	消防施設の充実強化	耐震性防火水槽	H26	10箇所	17箇所	22箇所	R1	19箇所	達成
既存ストックのマネジメント強化	空き家対策	空き家情報バンク登録件数	H26	6件	30件	35件	R1	35件	達成
地域ブランド力の推進	地域ブランド力の推進	忠臣蔵サミット参加加盟市区町	H26	13市区町	20市区町	20市区町	R1	14市区町	現状維持

【分析】

- ・防災・減災対策の推進、空き家対策、高齢者を見守る支えるネットワークの形成などの項目を中心に、目標を達成した項目が多くみられる。
- ・過疎化が進む地域における小さな拠点の形成について、「コミュニティバス」や「デマンドタクシー」の利用者数の増加に向けて利便性の向上を図る取組が求められる。

【KPIに対する各担当課の評価】

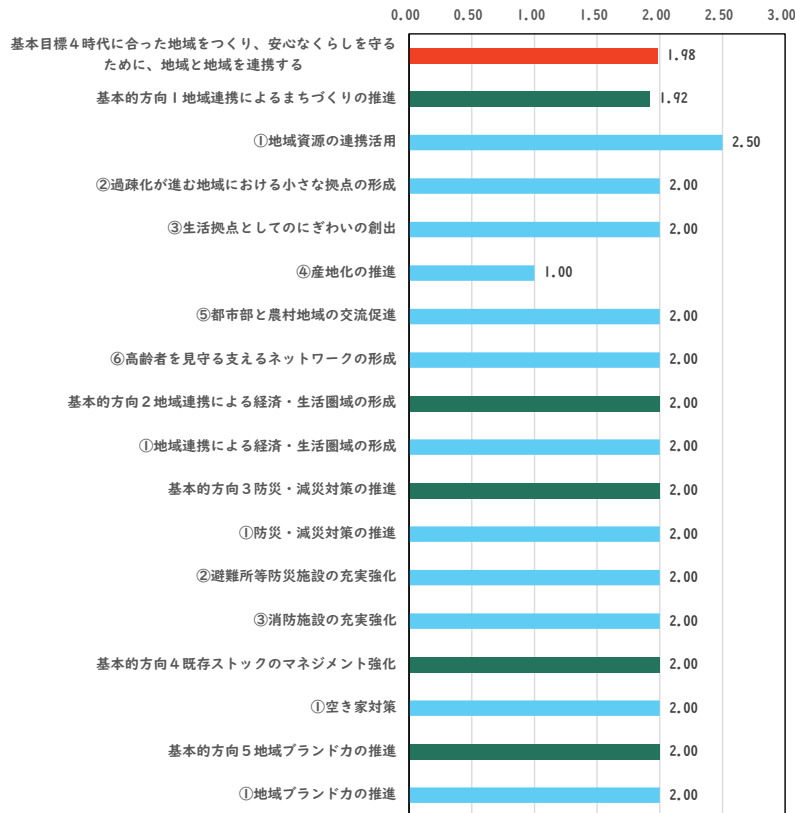
基本的方向	施策	KPI	達成状況	地方創生への効果
地域連携によるまちづくりの推進	地域資源の連携活用	観光マップ化取組地区数	A	B
		赤穂緞通伝承者の育成（再掲）	A	A
	過疎化が進む地域における小さな拠点の形成	コミュニティバス利用者数	B	B
		デマンドタクシー利用者数	C	B
	生活拠点としてのにぎわいの創出	駅周辺開発地区数	B	B
	産地化の推進	産地化した特産品数	C	C
	都市部と農村地域の交流促進	交流地区数	C	B
高齢者を見守る支えるネットワークの形成	赤穂市高齢者見守りネット協定書の締結事業者数	A	B	
地域連携による経済・生活圏域の形成	地域連携による経済・生活圏域の形成	播磨圏域連携中枢都市圏形成協定分野数	A	B
		東備西播定住自立圏形成協定分野数	B	B
防災・減災対策の推進	防災・減災対策の推進	防災情報システムの整備	A	B
	避難所等防災施設の充実強化	防災備蓄物資及び防災備蓄庫の整備数	A	B
		避難所施設（小学校に限る）トイレ用水の整備数	A	B
消防施設の充実強化	耐震性防火水槽	B	B	
既存ストックのマネジメント強化	空き家対策	空き家情報バンク登録件数	A	B
地域ブランド力の推進	地域ブランド力の推進	忠臣蔵サミット参加加盟市区町	B	B

【分析】

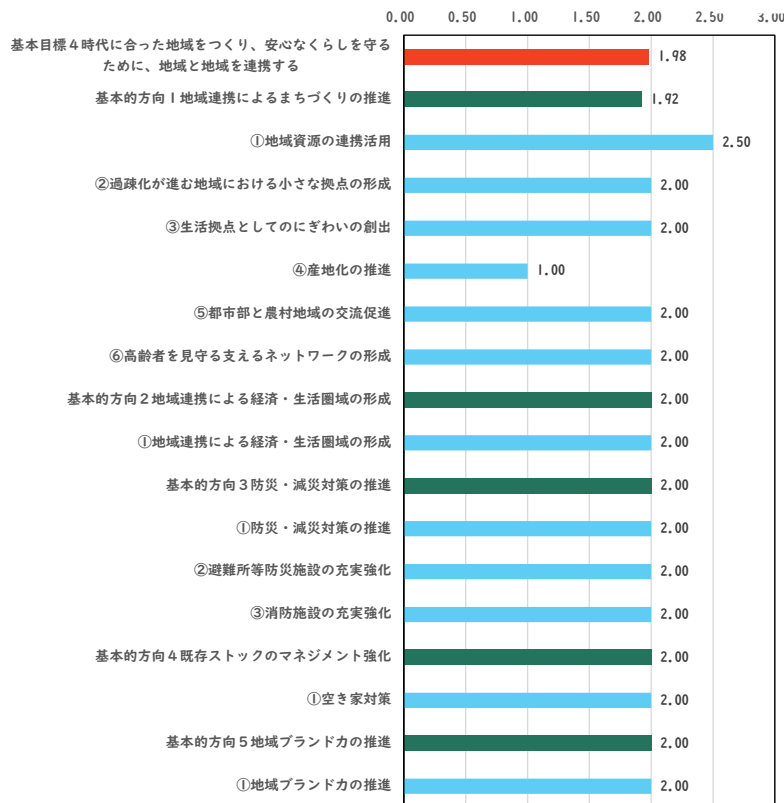
- ・ 防災・減災対策の推進、空き家対策で、担当課の評価が高くなっている。
- ・ 産地化の推進に係る事業は、農業関係者の意思を聴きながら検討する必要がある。
- ・ 「コミュニティバス利用者数」「デマンドタクシー利用者数」増に向けた取組が必要である。

【達成状況と地方創生への効果結果】

基本目標4 地方創生への効果 (点)



基本目標4 地方創生への効果 (点)



※横棒の色について、“基本目標”は赤色、“基本的方向”は緑色、“施策”は水色。

2. 事業実施状況からみた評価

(1) 「赤穂市総合戦略」の構造と評価手法

「赤穂市総合戦略」は、“基本目標” “基本的方向” “施策” “施策の内容” 及び “事業” の5つの階層により構成されている。

基本目標	基本的方向数	施策数	施策の内容数	事業数
赤穂市における安定した雇用を創出する	3	6	17	26
赤穂市への新しいひとの流れをつくる	3	5	17	51
若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	2	4	17	32
時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るために、地域と地域を連携する	5	12	16	39
計	13	27	67	148

※ “施策の内容” “事業” については再掲（重複）を含む。

「赤穂市総合戦略 効果検証シート」では、これら5階層のうちの“事業”ごとに、“地方創生への効果”についてA～Cの3段階評価を行っており、ここではこのA～Cそれぞれを次のように点数化した。

評価	地方創生への効果	点数化
A	大きな効果があった	3点
B	相当程度の効果があった	2点
C	効果がなかった	1点

こうした“事業”評価を点数化することにより、“事業”のひとつ上の階層“施策の内容”について、それを構成する“事業”の評価点数の平均点をもって、当該“施策の内容”の評価点とした。

同様に、“施策”についてはそれを構成する“施策の内容”の評価点数の平均点をもって、“基本的方向”についてはそれを構成する“施策”の評価点数の平均点をもって、また、“基本目標”についてはそれを構成する“基本的方向”の評価点数の平均点をもって、それぞれの評価点数とした。

(2) 点数化による評価結果

ここでは、点数化による評価結果について、“基本目標”とそれを構成する“基本的方向”“施策”の状況を整理した。

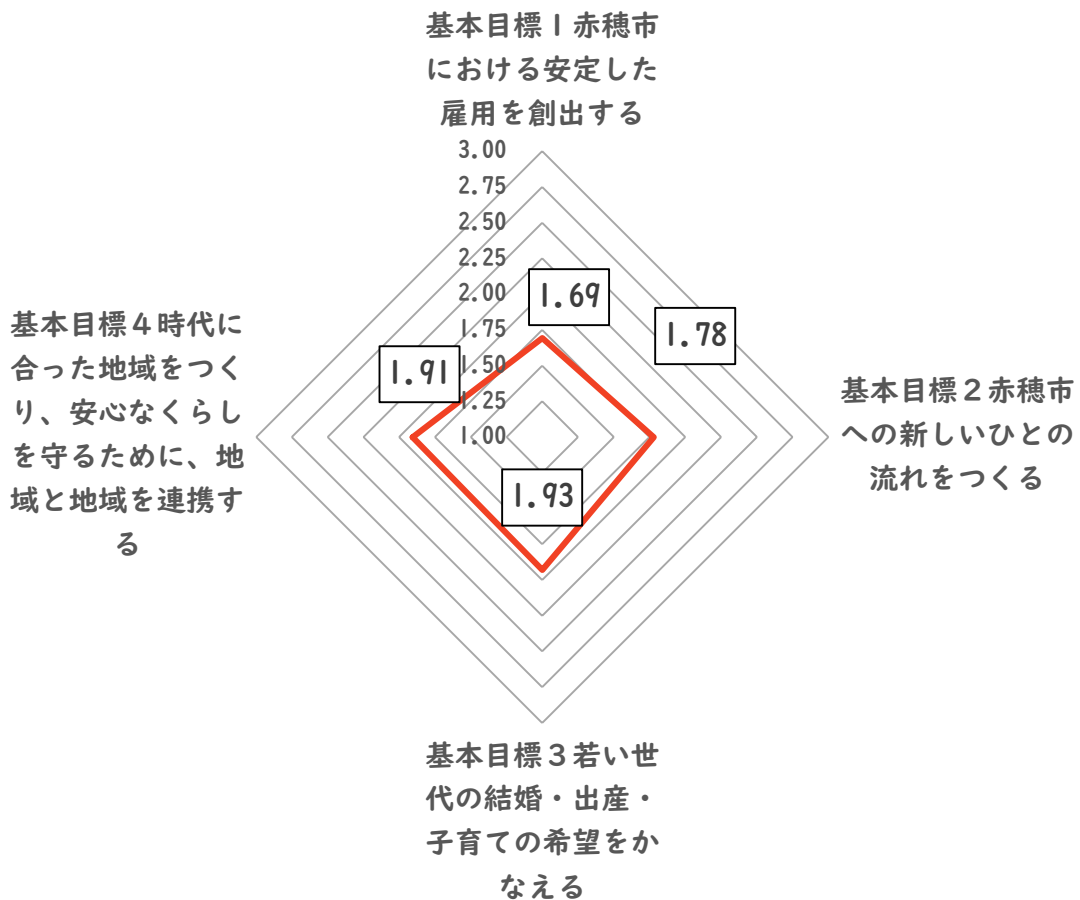
なお、“施策の内容”“事業”までを含めた詳細な評価結果については別紙「赤穂市総合戦略 効果検証シート」を参照。

① 4つの基本目標の評価

「赤穂市総合戦略」を構成する4つの“基本目標”について、

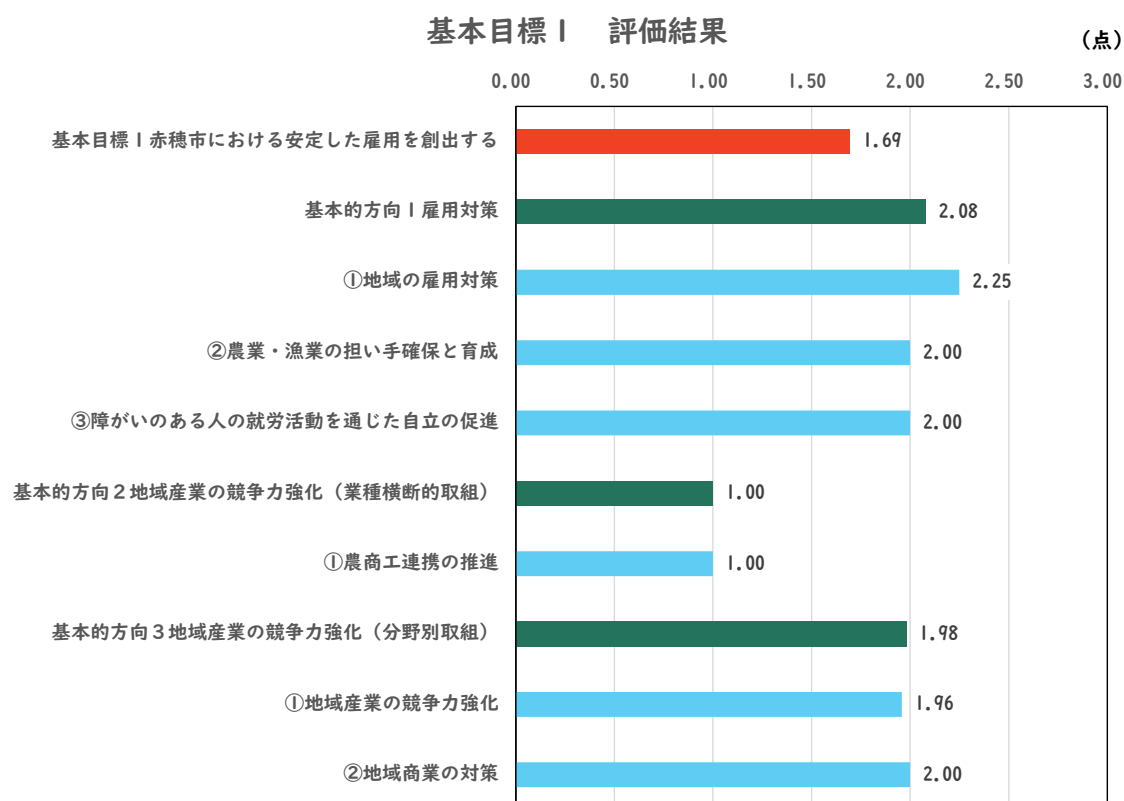
- ・評価が最も高かったのは「基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」で評価点2.00。
- ・評価が最も低いのは「基本目標1 赤穂市における安定した雇用を創出する」で評価点1.69。

基本目標 評価結果



② 基本目標Ⅰを構成する“基本的方向”“施策”の評価結果

- 基本目標Ⅰを構成する3つの“基本的方向”について、最も評価が高かったのは“基本的方向Ⅰ 雇用対策”で評価点2.10、逆に最も低かったのは“基本的方向Ⅱ 地域産業の競争力強化（業種横断的取組）”で評価点1.00となっている。
- “施策”レベルでみると、“基本的方向Ⅰ 雇用対策”の中の“①地域の雇用対策”が最も評価が高く評価点2.30、逆に最も評価が低かったのは“基本的方向Ⅱ 地域産業の競争力強化（業種横断的取組）”の中の“①農商工連携の推進”で評価点1.00となっている。



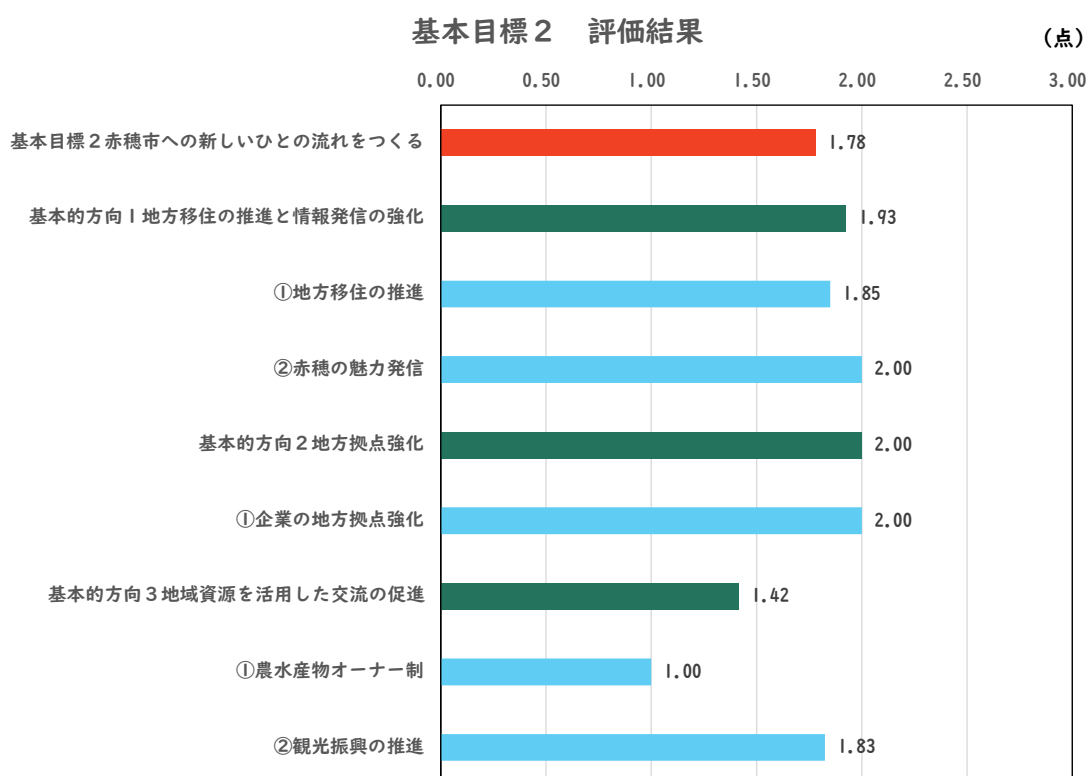
※横棒の色について、“基本目標”は赤色、“基本的方向”は緑色、“施策”は水色。

【分析】

- 「地域の雇用対策」については、6次産業化交付金を活用した開業支援や、地域と連携し、就農希望者の農地確保、使用しなくなった農機具の斡旋などの取組を行い新規就農が誕生したことにより、最も高い結果となった。
- 「農商工連携の推進」については、農業者と漁業者の生産物のデータ化と、商工業者との情報提供を実施した実績はなく、今後は生産者・加工業者双方のニーズの把握などについても検討する必要がある。
- 今後も、農業や漁業の分野において多業種との連携を強化し、安定した経営の確立が求められる。

③ 基本目標2を構成する“基本的方向”“施策”の評価結果

- 基本目標2を構成する3つの“基本的方向”について、最も評価が高かったのは“基本的方向2 地方拠点強化”で評価点2.00、逆に最も低かったのは“基本的方向3 地域資源を活用した交流の促進”で評価点1.42となっている。
- “施策”レベルでみると、“基本的方向1 地方移住の推進と情報発信の強化”の中の“②赤穂の魅力発信”と“基本的方向2 地方拠点強化”の中の“①企業の地方拠点化”が最も評価が高く、いずれも評価点2.00、逆に最も評価が低かったのは“基本的方向3 地域資源を活用した交流の促進”の中の“①農水産物オーナー制”で評価点1.00となっている。



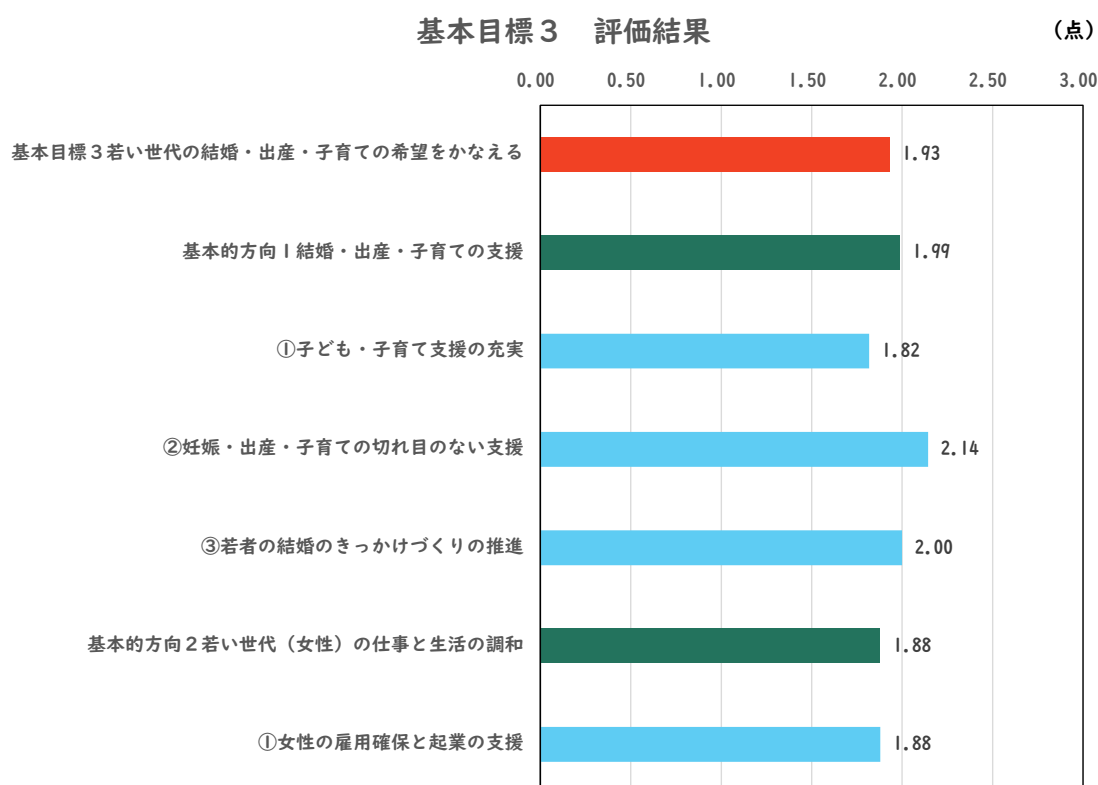
※横棒の色について、“基本目標”は赤色、“基本的方向”は緑色、“施策”は水色。

【分析】

- 「赤穂市の魅力発信」については、SNSを活用した情報発信を強化しており、令和元年11月からは、赤穂市公式のLINEアカウントによる情報発信も開始された。
- 「観光入込客数」については、多少の増減はあるものの、ほぼ横ばいで推移している。ICTを活用した情報発信の強化により、「観光地」としての認知度向上が求められる。

④ 基本目標3を構成する“基本的方向”“施策”の評価結果

- 基本目標2を構成する2つの“基本的方向”については、“基本的方向1 結婚・出産・子育ての支援”が評価点1.99、“基本的方向2 若い世代（女性）の仕事と生活の調和”が評価点2.00と大きな差異はなかった。
- “施策”レベルでみると、“基本的方向1 結婚・出産・子育ての支援”の中の“②結婚・出産・子育ての切れ目のない支援”が最も評価が高く評価点2.14、逆に最も評価が低かったのは“基本的方向1 結婚・出産・子育ての支援”の中の“①子ども・子育て支援の充実”で評価点1.82となっている。



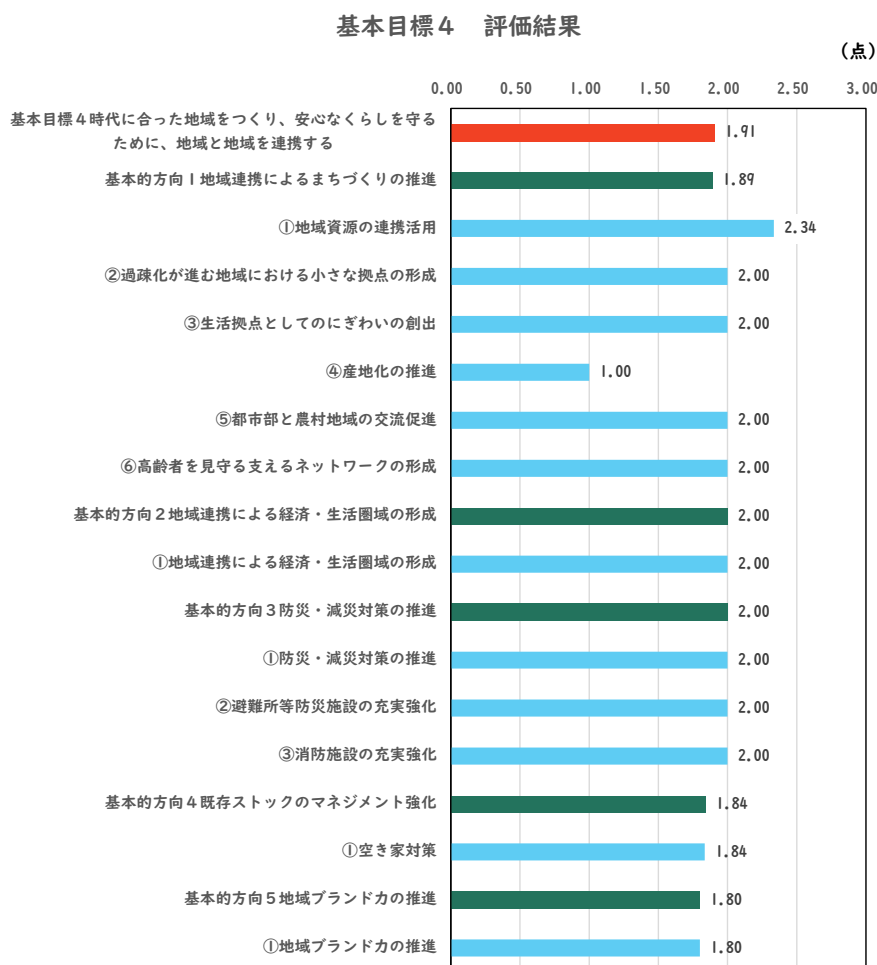
※横棒の色について、“基本目標”は赤色、“基本的方向”は緑色、“施策”は水色。

【分析】

- 「妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援」について、授業の理解が困難な子どもに対する補助教員による支援や、病気により登校が困難な子どもに対してタブレット端末による学習支援などの事業を実施した結果、評価が高くなった。
- 「子ども・子育て支援の充実」については、子育て情報の発信や、研修の実施などの取組も行われたが、「認定子ども園設置事業」「予防接種費助成事業」においては目標未達成であり、結果として評価が低くなった。
- 今後は、現行の総合戦略を維持・拡充するとともに、ニーズに応じて、より子育てしやすい環境の整備が求められる。

⑤ 基本目標4を構成する“基本的方向”“施策”の評価結果

- 基本目標4を構成する5つの“基本的方向”について、最も評価が高かったのは“基本的方向2 地域連携による経済・生活圏域の形成”と“基本的方向3 防災・減災対策の推進”で、いずれも評価点2.00、逆に最も低かったのは“基本的方向5 地域ブランド力の推進”で評価点1.80となっている。
- “施策”レベルでみると、“基本的方向1 地域連携によるまちづくりの推進”の中の“①地域資源の連携活用”が最も評価が高く評価点2.34、逆に最も評価が低かったのは“基本的方向1 地域連携によるまちづくりの推進”の中の“④産地化の推進”で評価点1.00となっている。



※横棒の色について、“基本目標”は赤色、“基本的方向”は緑色、“施策”は水色。

【分析】

- 「地域資源の連携活用」については、「赤穂緞通」の若い世代の担い手を確保・育成することができたことで、評価が高くなった。
- 「地域ブランド力の推進」については、観光にとどまらず、幅広い分野の連携を検討する必要がある。

(3) “事業” についての今後の方針

- ・評価に用いた「赤穂市総合戦略 効果検証シート」では、“事業” ごとの“今後の方針” についても示されており、この情報について基本目標別・評価別に整理すると次のようになっている。
- ・「赤穂市総合戦略」の全 148 事業のうち、“継続” が最も多く 53.4%、次いで“廃止・休止” が 37.2%、“拡充” が 6.1%、“改善” が 3.4%となっている。
- ・基本目標別にみると、“基本目標 1” では 57.7%の事業について“廃止・休止”、“基本目標 4” でも 48.7%の事業について“廃止・休止” となっている。

全体	拡充	継続	改善	廃止・休止	計
A	4	7	1	3	15
B	5	68	4	31	108
C		4		21	25
計	9	79	5	55	148

全体	拡充	継続	改善	廃止・休止	計
A	2.7%	4.7%	0.7%	2.0%	10.1%
B	3.4%	45.9%	2.7%	20.9%	73.0%
C		2.7%		14.2%	16.9%
計	6.1%	53.4%	3.4%	37.2%	100.0%

基本目標 1	拡充	継続	改善	廃止・休止	計
A		3		2	5
B		7		8	15
C		1		5	6
計	0	11	0	15	26

基本目標 1	拡充	継続	改善	廃止・休止	計
A		11.5%		7.7%	19.2%
B		26.9%		30.8%	57.7%
C		3.8%		19.2%	23.1%
計	0.0%	42.3%	0.0%	57.7%	100.0%

基本目標 2	拡充	継続	改善	廃止・休止	計
A	1	3	1		5
B	1	27	1	7	36
C		1		9	10
計	2	31	2	16	51

基本目標 2	拡充	継続	改善	廃止・休止	計
A	2.0%	5.9%	2.0%		9.8%
B	2.0%	52.9%	2.0%	13.7%	70.6%
C		2.0%		17.6%	19.6%
計	3.9%	60.8%	3.9%	31.4%	100.0%

基本目標 3	拡充	継続	改善	廃止・休止	計
A	3				3
B	2	19	1	4	26
C		2		1	3
計	5	21	1	5	32

基本目標 3	拡充	継続	改善	廃止・休止	計
A	9.4%	0.0%			9.4%
B	6.3%	59.4%	3.1%	12.5%	81.3%
C		6.3%		3.1%	9.4%
計	15.6%	65.6%	3.1%	15.6%	100.0%

基本目標 4	拡充	継続	改善	廃止・休止	計
A		1		1	2
B	2	15	2	12	31
C				6	6
計	2	16	2	19	39

基本目標 4	拡充	継続	改善	廃止・休止	計
A		2.6%		2.6%	5.1%
B	5.1%	38.5%	5.1%	30.8%	79.5%
C				15.4%	15.4%
計	5.1%	41.0%	5.1%	48.7%	100.0%

3. 基本目標ごとのまとめ

基本目標1 赤穂市における安定した雇用を創出する

- ・雇用の創出に関して、農林水産物直売所の設置支援や6次産業化の推進により、産業活性化や雇用の創出に貢献する取組も行われた。
- ・漁業の分野では、目標未達成の分野もあり、農業の分野とともに支援が求められる。
- ・今後は、生産、加工、流通までの一貫した支援を図り、地域全体での産業発展と、雇用の創出が求められる。

基本目標2 赤穂市への新しいひとの流れをつくる

- ・定住支援策による転入者数におけるK P Iは達成しているが、今後、移住者の増加を図るとともに、人口流出を抑制する施策を強化する必要がある。
- ・企業の地方拠点強化に関しては目標未達成であったが、今後は企業の誘致を強化することで、人口流出の抑制や、地域の活性化につなげる必要がある。
- ・最近ではSNSによる情報発信が強化されたが、今後も赤穂市の魅力を広くPRすることで、赤穂市に対する注目を高め、交流人口の拡大を図る必要がある。

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- ・保育所の利用率増加や、子育て・教育支援の分野で目標達成の分野が多くみられた。
- ・「赤穂女性チャレンジひろば」では、活用に関して目標未達成であり、子育てや教育とともに、女性の仕事に関する分野の強化が必要である。
- ・子育て支援とともに、若い世代（女性）の支援を強化することで、仕事と生活が両立できる子育てしやすい環境の整備が必要である。

基本目標4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るために、地域と地域を連携する

- ・地域連携によるまちづくりの推進について、公共交通の利便性向上に向けた取組の拡充が必要である。
- ・広域的な連携では、圏域内市町と連携を図り、経済、市民サービスの強化を図る必要がある。
- ・防災の分野では、目標達成の取組が多くみられたため、今後も安心な地域づくりのために取組の拡充が求められる。